

県南家畜衛生情報



(一関市あじさい園の花達)

今号の主な内容

放牧衛生について(生産衛生)
アブ対策をしましょう(大家畜)
飼料に関する情報(安全対策)
豚丹毒ワクチンを接種しましょう(中小家畜)
管内の監視伝染病発生状況について(病性鑑定)
特定疾病予防注射手数料及び技術料(協議会)

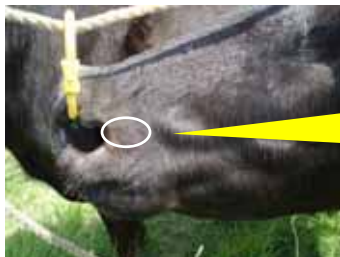
2007

第31号

平成19年6月29日

放牧衛生について

4月から山地では放牧が開始され、里では休耕田や遊休土地を活用した簡易放牧が順調に広がりつつあります。そこで、改めて放牧地における家畜害虫、特にマダニについて解説します。マダニで問題になるのは吸血性のマダニで、病気の媒介者として非常に重要な役割を持っています。卵から羽化したダニは、成長過程で脱皮のために吸血を繰り返し、成虫は産卵のために吸血を行います。



吸血中のダニ(鼻の右脇)



吸血中のダニ(拡大)

ダニの吸血は、小型ピロプラズマ病の原因となる原虫を媒介します!

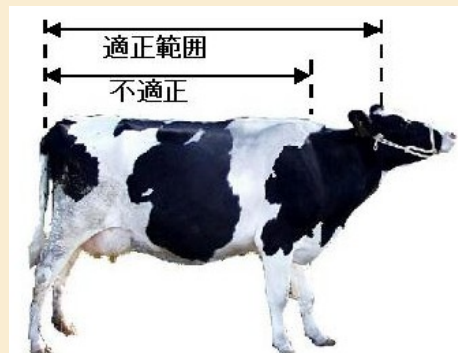
重要点

- 1 ダニは病気(原虫)を媒介しますが、ダニは牛から感染します。
感染牛の居ない場所のダニは原虫を持っていません。
- 2 病気を媒介は、2回目の脱皮と産卵のための吸血時に行われます。
- 3 病気の媒介するダニに対しては、薬剤(殺虫剤)の応用が有効です。

薬剤の使用に際しては用法用量を確認のうえ正しくご使用下さい。

ピレスロイド系薬剤の塗布方法

背中線に沿って、寄生状況に応じ適宜鼻部から尾根部までの皮膚に滴下するとありますので、最低限、頭から尾根部まで確実に塗布してください。



アブ対策をしましょう

この時期、気温の上昇とともに、アブが飛来し、牛の背や腹で吸血している光景を牛舎内や牧場で見かけることがあります。

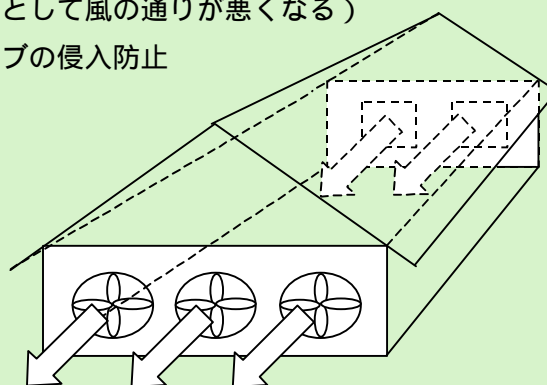
アブによる吸血は牛にとって**ストレス要因**となり、乳牛では**産乳量の減少**、育成牛や肉用子牛では**増体の低下**が懸念されます。また、アブを追い払うために母牛や搾乳牛に過度の動きが加わるため、子牛の怪我を招いたり、安全な搾乳作業に障害をきたす場合も見うけられます。安定した家畜の生産性を確保するためにも、アブ対策を行うことが望ましいでしょう。

主なアブ防除の対策

アブトラップ（捕虫器）の設置（アブの発生地（沢等）側に置くと効果的）
窓や入り口の防虫ネット張り（欠点として風の通りが悪くなる）
トンネル換気による、牛舎内へのアブの侵入防止



アブトラップ



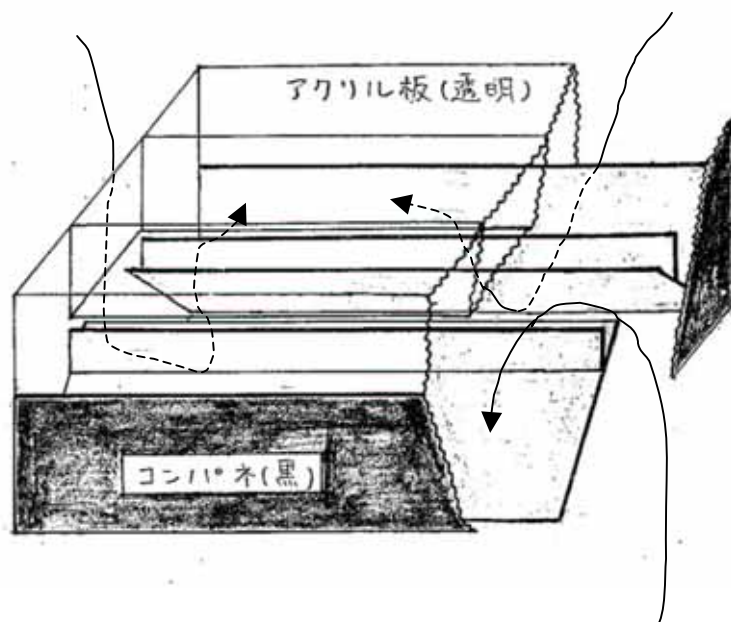
牛舎のトンネル換気

等が上げられます。但し、牛舎内を密閉しない限り、完全なアブ防除とはならないことをご理解願います。

アブトラップは完成品として販売されているもので、15,000円程度です。また、構造的に複雑なものではないため、自作することも可能です。自作する場合、材料費として5,000円～10,000円程度のほかに人件費が必要です。詳しい作成方法等については、当所防疫課大家畜チームまでお問い合わせ下さい。

図：アブトラップの構造

アブが家畜の腹側から吸血するという習性と、光に集まる習性を利用して、狭い隙間から箱の中に誘い込み、閉じ込める構造になっている。（矢印はアブの動き）



飼料に関する情報 ~ 輸入乾牧草に起因すると思われる中毒の発生について ~

平成19年4月中旬、長野県下及び岐阜県下の農家3戸において、牛が8頭死亡した件について、当該家畜に給与されていたスーダングラス（生産地：米国カリフォルニア州ヨーロ郡、収穫時期：平成18年8月）に高濃度の硝酸態窒素（最高濃度1.6%）が確認され、死亡原因との関連が疑われています（当該県において、調査を継続中）。

このことから、農林水産省は飼料輸入団体の長あてに、乾牧草の輸入に際し、飼料の安全性の確保に万全を期すよう、傘下の会員に周知徹底を依頼しています。

今回は、輸入乾草で起きた事例ですが、**自家産粗飼料でも起こり得る事例**です。下記を参考に硝酸体窒素の含有量が高くなるよう十分に注意しましょう。

硝酸体窒素による中毒（硝酸塩中毒）の症状

急性中毒：牛の急死

慢性中毒：食欲減退、乳量の減少、繁殖成績の低下（経済的な損失が問題になります）

原因となる高濃度の硝酸体窒素を含む場合がある飼料

輸入乾草：スーダングラス、ルーサンなどの輸入乾草

イタリアンライグラス、トウモロコシ

自家産の粗飼料でも硝酸体窒素の含有量が高くなる場合があります！！

過剰な窒素（家畜糞尿等）の施肥

干ばつ・日照不足・低温などのストレスを受ける

被害を未然に防ぐために注意すること

高濃度が疑われる粗飼料は単独で給与しない（他の飼料と組み合わせる）

たい肥・尿を、過剰に施肥しない（草地・飼料畑はたい肥捨て場ではありません！！）

< 粗飼料中に含まれる硝酸体窒素の量と給与の目安 >

硝酸態窒素含量(DM%)	妊娠牛	非妊娠牛
0.10未満	安全	
0.10~0.15	安全	
0.15~0.20	総飼料の50%まで給与可	
0.20~0.35	給与不可	35~40%に制限
0.35~0.40		25%以下に制限
0.40以上		

Bradley.W.Bら（1940）

豚丹毒ワクチンを接種しましょう

豚丹毒は豚丹毒菌の感染によっておこる感染症で届出伝染病に指定されています。



症状は・・・

豚の免疫状態などにより様々な症状を示します。敗血症型では発熱を示し急性経過で死亡します。蕁麻疹型では発熱・食欲不振に加え菱形疹とよばれる特徴的な皮膚病変が現れます。関節炎型等では四肢の関節の腫脹・疼痛・跛行が見られます。心内膜炎型は臨床的にはほとんど症状を示すことなく剖検時に発見されます。

最近の発生は・・・

上記に示したうち、敗血症型や蕁麻疹型という急性型はほとんど見られていませんが、最近では、と畜場において解体時の検査で関節炎型等として摘発される例が多くなっています。

予防のために・・・

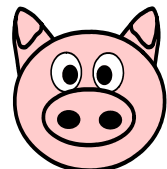
豚丹毒菌は自然界に広く分布しており、健康な豚の扁桃からも分離されることがあります。このため、ワクチン接種することが発生予防に重要です。

豚丹毒ワクチンは弱毒生菌ワクチンと不活化ワクチンがあります。弱毒生菌ワクチンは、一般に約 50 日齢時に接種しますが、抗生物質に影響を受けますので、接種 3 日前から接種 7 日後まで抗生物質を使用しないようにします。また、移行抗体の影響も受けますので、以前に豚丹毒が摘発された農場では移行抗体のレベルが高い場合が考えられるので、接種時期を少し遅らせることが必要です。不活化ワクチンは、移行抗体と抗生物質の影響は受けませんが、追加接種が必要です。

詳しい接種方法はかかりつけの獣医師または家畜保健衛生所にご相談ください。

おわりに・・・

豚丹毒は古くから発生している疾病で、現在でも養豚に大きな損害を与えています。豚舎の消毒や豚の免疫状態を良好に保つこと、そしてワクチンを接種することで発生を予防しましょう。



平成 18 年度管内における監視伝染病発生状況について

家畜の「監視伝染病」は、家畜や家きんに発生すると被害の大きい疾病について発生動向を「監視」すべき病気で、家畜伝染病予防法で指定されています。随時、発生状況が集計され、国内の動向が把握できます。ここでは、昨年の管内で発生した監視伝染病についてお知らせします。

家畜伝染病

ヨーネ病は 5 市 9 戸 11 頭の発生がありました。新たな農場での発生は 3 戸 4 頭で、他は過去に発生のある農場でした。

ふそ病は 1 市 1 戸 4 群の発生がありました。本病は幼虫に *Paenibacillus larvae* が感染することによって起こります。適切な抗生物質製剤の使用により予防することが可能です。

病名	畜種（品種）	市町数	戸数	頭群数	備考
ヨーネ病	ホルスタイン種	1	2	2	
	黒毛和種	4	7	9	
ふそ病	みつばち	1	1	4	

届出伝染病

牛白血病は述べ 8 市町 57 戸 57 頭の発生がありました。摘発時の平均年齢は、ホルスタイン種で 5.1 歳（2～8 歳）、黒毛和種で 6.9 歳（2～15 歳）でした。

破傷風は 1 市 2 戸 2 頭の発生がありました。いずれも発生前に去勢術が施されていました。

牛ウイルス性下痢・粘膜病は 1 市 1 戸 2 頭の発生がありました。いずれも持続感染牛（PI 牛）で著しい発育不良と下痢がみられました。PI 牛は、生涯同ウイルスを分泌・排泄し続け、本病の感染源となるため早期発見・淘汰が大切です。

病名	畜種（品種）	市町数	戸数	頭群数	備考
牛白血病	ホルスタイン種	3	35	35	
	黒毛和種	5	22	22	
破傷風	黒毛和種	1	2	2	
牛ウイルス性下痢・粘膜病	黒毛和種、交雑種	1	1	2	持続感染牛

平成 19 年度特定疾病予防注射手数料および技術料について

岩手県南家畜衛生推進協議会より、各種ワクチンの接種料をお知らせします。

今年度は、新たに「牛5種混合（不活化）ワクチン」および「牛6種混合（生・不活化）ワクチン」が採用されました。

これらワクチンの特徴は、牛ウイルス性下痢・粘膜病の不活化ワクチンが含まれていることです。このため、妊娠牛にも接種可能となりましたので、当ワクチンの積極的な活用をお願いします。

	ワクチン	接種料	技術料	備考
受託事業	牛5種混合（生）	1,900	500	
	牛5種混合（不活化）	1,650	500	新規採用
	牛6種混合（生・不活化）	2,100	500	新規採用
	牛アカバネ病	1,650	500	
	牛ヘモフィルス	1,200	500	
	豚丹毒(生)	160	90	
	豚丹毒(不活化)	170	90	
独自事業	日本脳炎・パルボ混合（生）	1,300	250	
	豚日本脳炎（生）	600	250	
	馬日本脳炎	1,000	500	

（1頭1回の金額、単位：円）

- * 昨年度、管内でもヘモフィルス・ソムナス感染症の発生や、牛ウイルス性下痢・粘膜病の持続感染牛が確認されています。ワクチンを接種し、大事な牛を確実に守りましょう！

編集・発行

〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字東館 41-1

岩手県南家畜保健衛生所 TEL 0197-23-3531 FAX 0197-23-3593
(<http://www.pref.iwate.jp/~hp2514/>)

岩手県南家畜衛生推進協議会 TEL 0197-24-5532 FAX 0197-23-6988